

|      |         |       |           |
|------|---------|-------|-----------|
| 分野名  | 専門分野 II | 科目名   | 成人看護学実習 I |
| 単位数  | 2       | 授業時間数 | 90        |
| 開講年次 | 3年次     | 開講期間  | 通年        |

|             |   |
|-------------|---|
| 目的          | 成人期にある患者の健康のレベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。   |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の発達段階や発達課題をふまえ、身体的・心理的・社会的側面を統合して理解する。</li> <li>2. 成人期にある患者の健康問題を判断し、個別性に応じた看護を実施する。</li> <li>3. 患者および家族の心理状態に配慮し、尊重した態度でかかわる。</li> <li>4. 多職種との連携の必要性を理解する。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。</li> </ol>  |
| 行動目標        | <p>A 生命の危機状態にある患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急医療の体制と機能について理解する。</li> <li>2. 生命の危機状態にある患者・家族の特徴を理解する。</li> <li>3. 生命の危機状態にある患者・家族の援助の実際がわかる。</li> </ol> <p>B 手術を必要とする患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最良の状態です手術を受けるための援助を理解する。</li> <li>2. 手術侵襲による生理的機能変化を観察する。</li> <li>3. 安全で安楽に回復するための援助を実施する。</li> <li>4. 患者と家族の気持ちを尊重した態度でかかわる。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。</li> </ol> |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>   |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。   |

|      |       |       |          |
|------|-------|-------|----------|
| 分野名  | 専門分野Ⅱ | 科目名   | 成人看護学実習Ⅱ |
| 単位数  | 2     | 授業時間数 | 90       |
| 開講年次 | 3年次   | 開講期間  | 通年       |

|             |  |
|-------------|--|
| 目的          | 成人期にある患者の健康のレベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。  |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の発達段階や発達課題をふまえ、身体的・心理的・社会的側面を統合して理解する。</li> <li>2. 成人期にある患者の健康問題を判断し、個別性に応じた看護を実施する。</li> <li>3. 患者および家族の心理状態に配慮し、尊重した態度でかかわる。</li> <li>4. 多職種との連携の必要性を理解する。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。</li> </ol> |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者のセルフケア能力に応じた日常生活の援助を実施する。</li> <li>2. 患者のセルフケア行動に向けて学習支援を実施する。</li> <li>3. 患者及び家族の心理状態に応じた援助を理解する。</li> <li>4. 患者と家族の気持ちを尊重した態度でかかわる。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。</li> </ol>                          |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>    |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。  |

|      |       |       |          |
|------|-------|-------|----------|
| 分野名  | 専門分野Ⅱ | 科目名   | 成人看護学実習Ⅲ |
| 単位数  | 2     | 授業時間数 | 90       |
| 開講年次 | 3年次   | 開講期間  | 通年       |

|             |  |
|-------------|--|
| 目的          | 成人期にある患者の健康のレベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。  |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の発達段階や発達課題をふまえ、身体的・心理的・社会的側面を統合して理解する。</li> <li>2. 成人期にある患者の健康問題を判断し、個別性に応じた看護を実施する。</li> <li>3. 患者および家族の心理状態に配慮し、尊重した態度でかかわる。</li> <li>4. 多職種との連携の必要性を理解する。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。</li> </ol> |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の身体的苦痛や全身状態の悪化に伴う援助を実施する。</li> <li>2. 患者と家族の心理状態に応じた援助を理解する。</li> <li>3. 患者の生活の質を維持・向上するための日常生活の援助を実施する。</li> <li>4. 患者と家族の気持ちを尊重した態度でかかわる。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。</li> </ol>                    |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>    |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。  |

|      |        |       |          |
|------|--------|-------|----------|
| 分野名  | 専門分野II | 科目名   | 老年看護学実習I |
| 単位数  | 2      | 授業時間数 | 90       |
| 開講年次 | 3年次    | 開講期間  | 通年       |

|             |  |
|-------------|--|
| 目的          | 老年期にある対象の健康レベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。   |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の加齢に伴う変化、健康状態を理解できる。</li> <li>2. 高齢者の特徴、健康状態や生活機能をふまえ、日常生活の援助を実施できる。</li> <li>3. 高齢者の意思を尊重できる。</li> <li>4. 高齢者を取り巻く医療・福祉における多職種との連携の必要性を理解できる。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。</li> </ol>   |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象とコミュニケーションをとり、人間関係を築くことができる。</li> <li>2. 対象の状態に応じた日常生活の支援を実施できる。</li> <li>3. 施設で生活する対象の楽しみや生きがいへの支援を実施できる。</li> <li>4. 施設における看護の機能と役割を述べるができる。</li> <li>5. 対象の意志を尊重した態度でかかわることができる。</li> <li>6. 施設の現状から、老年看護のあり方を考察できる。</li> <li>7. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現できる。</li> </ol> |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>  |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。  |

|      |       |       |          |
|------|-------|-------|----------|
| 分野名  | 専門分野Ⅱ | 科目名   | 老年看護学実習Ⅱ |
| 単位数  | 2     | 授業時間数 | 90       |
| 開講年次 | 3年次   | 開講期間  | 通年       |

|             |   |
|-------------|---|
| 目的          | 老年期にある対象の健康レベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。  |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の加齢に伴う変化、健康状態を理解できる。</li> <li>2. 高齢者の特徴、健康状態や生活機能をふまえ、日常生活の援助を実施できる。</li> <li>3. 高齢者の意思を尊重できる。</li> <li>4. 高齢者を取り巻く医療・福祉における多職種との連携の必要性を理解できる。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。</li> </ol>            |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象とコミュニケーションをとり、人間関係を築くことができる。</li> <li>2. 対象の状態に応じた日常生活拡大への援助を実施できる。</li> <li>3. 高齢者に起こりやすい症状に対する援助を実施できる。</li> <li>4. 対象の気持ちを尊重した態度でかかわることができる。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現できる。</li> </ol>            |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol> |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。   |

|      |        |       |         |
|------|--------|-------|---------|
| 分野名  | 専門分野II | 科目名   | 小児看護学実習 |
| 単位数  | 2      | 授業時間数 | 90      |
| 開講年次 | 3年次    | 開講期間  | 通年      |

|             |  |
|-------------|--|
| 目的          | 小児各期にある対象とその家族を理解し、成長発達・健康段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。   |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児各期の成長発達・健康段階が理解できる。</li> <li>2. 小児各期の成長発達段階を考慮したかかわりができる。</li> <li>3. 入院治療の必要な子どもと家族の個別性を考慮した援助が実施できる。</li> <li>4. 安全管理の重要性を理解し、事故防止に努めることができる。</li> <li>5. 子どもの権利をふまえた誠実な態度でかかわることができる。</li> </ol>  |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で生活する子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児・学童の成長発達を観察できる。</li> <li>2. 受け持ちクラスの日常生活援助および保育・学習活動の実際を観察できる。</li> <li>3. 子どもの安全を守るために必要な環境を述べることができる。</li> <li>4. 保育園・小学校における健康の保持・増進のための援助の実際を述べることができる。</li> </ol> </li> <li>2) 入院治療を必要とする子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患児と家族の健康上の問題を明確にできる。</li> <li>2. 患児の個別性を考慮した日常生活の援助を考えることができる。</li> <li>3. 患児と家族の状態や症状を踏まえた援助ができる。</li> <li>4. 発達段階に応じて起こりうる事故を予測し、安全を守る援助ができる。</li> <li>5. 子どもの権利をふまえた援助の必要性が表現できる。</li> </ol> </li> </ol> |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>  |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。  |

|      |        |       |         |
|------|--------|-------|---------|
| 分野名  | 専門分野II | 科目名   | 母性看護学実習 |
| 単位数  | 2      | 授業時間数 | 90      |
| 開講年次 | 3年次    | 開講期間  | 通年      |

|      |  |
|------|--|
| 目的   | 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護ができる基礎的知識・技術・態度を養う。  |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に合わせた基本的援助が理解できる。</li> <li>2. 妊娠・分娩・産褥期における母子相互作用について理解を深め、円滑な母子関係の形成へ向けてかかわることができる。</li> <li>3. 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉と諸機関との連携について理解を深めることができる。</li> <li>4. 専門職業人をめざす学習者として、ふさわしい態度をとることができる。</li> </ol>  |
| 行動目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠に伴って生じる身体的変化（胎児の発育状態含む）、心理・社会的変化について情報収集できる。</li> <li>2. 妊婦の健康診査が理解できる。</li> <li>3. 受け持ち妊婦の妊娠経過及び妊婦の健康生活について解釈・分析できる。</li> <li>4. 妊娠各期に応じた保健指導の内容と方法が理解できる。</li> </ol> </li> <li>2) 産婦看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院時の産婦の観察と援助が理解できる。</li> <li>2. 分娩1期・2期の進行状態の観察と援助が理解できる。</li> <li>3. 分娩3期の観察と援助が理解できる。</li> <li>4. 分娩後4期の観察と援助が理解できる。</li> </ol> </li> <li>3) 褥婦看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 褥婦の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。</li> <li>2. 産褥経過が情報収集・解釈・分析できる。</li> <li>3. 復古状態の観察と復古促進の援助ができる。</li> <li>4. 褥婦の育児行動を観察し、母乳栄養・母子関係確立への援助ができる。</li> <li>5. 褥婦に必要な保健指導を理解し、支援的関わりができる。</li> <li>6. 母児の生活を継続して援助するために、地域社会や地域関連機関との連携の必要性を理解できる。</li> </ol> </li> <li>4) 新生児看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児の健康状態に影響を及ぼす因子について理解できる。</li> <li>2. 出生直後の新生児の観察と援助ができる。</li> <li>3. 新生児の日齢に応じた生理的变化を観察し、健康状態について解釈・分析できる。</li> <li>4. 胎外生活への適応を促進するための援助ができる。</li> </ol> </li> </ol> |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>5) 母性看護学実習における学習者の態度</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 母性看護学領域における自己の課題を常に明らかにし、主体的に学習に取り組むことができる。</li><li>2. 看護学生としてその場にふさわしい態度で、実習に臨むことができる。</li></ol>  |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li><li>2. 評価基準<ol style="list-style-type: none"><li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li><li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li></ol></li></ol> |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。   |



|      |        |       |         |
|------|--------|-------|---------|
| 分野名  | 専門分野II | 科目名   | 精神看護学実習 |
| 単位数  | 2      | 授業時間数 | 90      |
| 開講年次 | 3年次    | 開講期間  | 通年      |

|             |  |
|-------------|--|
| 目的          | 精神に障害をもつ対象とその家族に看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。   |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害をもつ対象への理解を表現する。</li> <li>2. 入院している対象のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を実施する。</li> <li>3. 患者－看護師関係の発展過程を理解し、尊重した態度で関わる。</li> <li>4. 精神医療における看護の役割・機能を説明する。</li> <li>5. 自己の内面の変化に気づき自己洞察する。</li> <li>6. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。</li> </ol>   |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害をもつ対象への理解を表現する。</li> <li>2. 入院している対象のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を実施する。</li> <li>3. 患者－看護師関係の発展過程を理解し、尊重した態度で関わる。</li> <li>4. 精神医療における看護の役割・機能を説明する。</li> <li>5. 自己の内面の変化に気づき自己洞察する。</li> <li>6. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。</li> </ol> </li> <li>2) デイケア実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で暮らす精神に障害をもつ対象への理解を表現する。</li> <li>2. 社会資源の活用から社会復帰に向けた援助・支援への理解を表現する。</li> <li>3. 通所者の生きにくさを理解し、尊重した態度で関わる。</li> <li>4. 精神地域医療における看護の役割・機能を説明する。</li> <li>5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。</li> </ol> </li> </ol> |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>  |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。  |

|      |      |       |         |
|------|------|-------|---------|
| 分野名  | 統合分野 | 科目名   | 在宅看護論実習 |
| 単位数  | 2    | 授業時間数 | 90      |
| 開講年次 | 3年次  | 開講期間  | 通年      |

|             |   |
|-------------|---|
| 目的          | 在宅で療養する人々の生活上の課題を明確にし、健康上の諸問題の解決に向けた看護を実践できる基礎的知識・技術・態度を養う。   |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における施設の機能と役割を述べる。</li> <li>2. 在宅療養者とその家族の生活上・健康上の諸問題・課題を述べる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族の QOL の維持・向上、生活支援を目指した看護を実施する。</li> <li>4. 多職種の役割を理解し、連携や協働、社会資源の活用について述べる。</li> <li>5. 専門職業人を目指す学習者としての基本的な姿勢を身につけ表現する。</li> </ol>  |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療機関の外来 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の視点から見た外来看護の機能と役割を述べる。</li> <li>2. 対象とその家族の健康レベル、生活の様子を述べる。</li> <li>3. 対象の自立に向けた社会資源の必要性和活用について述べる。</li> <li>4. 多職種との協働について述べる。</li> <li>5. 専門職業人を目指す学習者としての態度を表現する。</li> </ol> </li> <li>2) 地域包括支援センター <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の視点から見た地域包括支援センターの役割と機能を述べる。</li> <li>2. 対象とその家族の健康レベル、生活の様子、介護状況を述べる。</li> <li>3. 対象の自立に向けた社会資源の必要性和活用方法について述べる。</li> <li>4. 専門職業人を目指す学習者としての態度を表現する。</li> </ol> </li> <li>3) 訪問看護ステーション <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の視点から見た訪問看護ステーションの機能と役割を述べる。</li> <li>2. 在宅療養者とその家族の健康レベル、生活の様子、介護状況を述べる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族の健康の保持・増進を目指した生活支援を含めた看護を実施する。</li> <li>4. 専門職業人を目指す学習者としての態度を表現する。</li> </ol> </li> </ol> |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>   |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。   |

|      |      |       |        |
|------|------|-------|--------|
| 分野名  | 統合分野 | 科目名   | 臨床総合実習 |
| 単位数  | 2    | 授業時間数 | 90     |
| 開講年次 | 3年次  | 開講期間  | 後期     |

|             |   |
|-------------|---|
| 目的          | 既習の知識・技術・態度を統合して多職種と協働し、看護チームの一員として看護実践できる能力を養う。  |
| 実習目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の患者を受け持ち、優先順位、時間管理、安全を考慮し援助を実施できる。</li> <li>2. 夜勤看護師の役割や夜間における患者の状況を理解できる。</li> <li>3. チーム医療における看護管理者・看護師の役割と機能の理解を深めることができる。</li> <li>4. 看護師に求められる態度と自己の課題を明確にできる。</li> </ol>  |
| 行動目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の受け持ち患者の優先順位、時間管理を考慮した援助ができる。</li> <li>2. 受け持ち患者の全体を把握し、受け持ち看護師の立案した看護計画に沿って援助を実施できる。</li> <li>3. 夜勤実習の体験を通し、夜勤看護師の役割や患者の状況を知ることができる。</li> <li>4. 看護部の役割と機能、病棟管理の実際について知ることができる。</li> <li>5. 看護チームの一員としての役割と連携の実際について理解できる。</li> <li>6. 多職種との連携の実際を知り、チーム医療における看護師の役割と機能について理解できる。</li> </ol> |
| 評価          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法<br/>評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。</li> <li>2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。</li> </ol> </li> </ol>   |
| 履修にあたっての留意点 | 詳細は実習要項を確認すること。   |